令和４年度 社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会事業報告

～みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり～

≪基本方針≫

岡垣町では、少子高齢化や核家族化が進み、住民相互のつながりが希薄化するなど、地域や家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。それに伴い、虐待や孤独死、生活困窮者への支援や災害時などに手助けが必要な避難行動要支援者への対応など、様々な地域課題が顕在化してきています。また、住民の福祉サービスに対するニーズは多様化し、従来のような高齢者、障害のある人、子どもなどの対象者ごとに支援する個別の制度の中では、多岐にわたるニーズに十分に対応できない状況が生じています。

このような状況の中、年齢や障害の有無にかかわらず、住民や学校、事業者など地域社会を構成するすべての人々が互いに支えあいながら、多様な主体の結びつきにより、ともに課題を解決していく共生社会づくりが求められています。

そして、多様で複合的な地域生活課題を解決するためには、住民相互の支えあいによる互助の取り組みを進め、自助、互助、共助、公助の連携によって、子どもから高齢者まで、すべての住民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けることができるような仕組みを作っていく必要があります。

岡垣町社会福祉協議会では、岡垣町の地域福祉計画と一体的に策定した地域福祉活動計画に基づき、高齢者や障害のある人、子どもなど様々な領域を地域の視点でとらえ、住民主体の地域福祉を支援する立場からより効果的な実践に取り組みました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず一部事業の中止や縮小をしました。

本年度から岡垣町福祉総合計画と社協地域福祉活動計画を岡垣町との協働により、一体的に策定しています。

≪基本理念≫

<u>みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり</u>

私たちの暮らしの基盤は「地域」にあります。地域の絆、地域での人と人とのつながりや困ったときに助け合える関係、支えあう仕組みづくりが重要となっています。岡垣町では、「互助」のさらなる充実により、地域で課題を解決していく力や地域での支えあい・助け合いの力の底上げをめざしました。支え手側と受け手側に分かれるのではなく、みんなが互いに支えあいながら、自分らしく活躍できる地域を目指し、基本理念を「みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり」としました。

≪基本目標≫

１．お互いに支えあう「つながり」づくり

２．地域福祉を支える「ひと」づくり

３．地域でともに生きる「環境」づくり

４．誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

≪基本目標ごとの取り組み≫

１．お互いに支えあう「つながり」づくり

私たちのくらしの基盤は「地域」にあります。地域での人々のつながりや支えあい、生活課題の解決に向けた取り組みが一人ひとりのくらしを守り、豊かなものにしてくれます。近所づきあいは、あいさつ程度と希薄化していますが、地域での支えあいや助け合いの必要性は増しています。

支えあいや助け合いを進めるためには、日頃から地域で交流することを通じて、お互いを知り、「お互いさま」と言える関係づくりを進めていく必要があります。地域の人たちが交流し、つながり、そして、支えあい、助け合うことができる仕組みづくりを進めました。

（１）お互いさま命のネットワークの強化

【具体的な取り組み】

■お互いさま命のネットワークの推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■自治区でのネットワーク活動を推進支援し、見守り協力機関含めた重層的な見守り体制づくりに努めました。また、緊急時には地域・行政と連携して迅速に対応しました。

【主な事業】

１）お互いさま命のネットワーク活動の推進・支援

自治区でのお互いさま命のネットワーク活動推進を目的に、活動に関する相談や情報提供など、自治区活動の支援を行いました。

また、社会的孤立を防ぐ身近な地域での支えあいの基盤となるネットワーク活動を推進・支援するため、地域関係者・関係団体等と連携・協議するなど、地域での重層的な見守り体制の構築に向け取り組みました。

〇お互いさま命のネットワーク委員会

令和４年６月 30 日　いこいの里

委員　自治区長会、民児協、寿会連合会、学識経験者、学校関係者、福祉団体、行政（福祉課、長寿あんしん課、地域づくり課）

内容　お互いさま命のネットワーク活動報告（社協）
危機管理専門職説明（地域づくり課）
「孤立させない地域づくり」について（意見交換）

〇お互いさま命のネットワーク活動見守り協力機関連絡会

令和５年２月 18 日　いこいの里

出席　見守り協力機関（20 事業所）、自治区長会、民児協、寿会連合会、行政（福祉課、長寿あんしん課）、社協

内容　活動実績報告と見守り協力機関の役割について（社協）
高齢者を狙った詐欺等の現状について（折尾警察署）
おでかけ見守りシール支給事業について（長寿あんしん課）

（２）ふれあい交流活動の充実

【具体的な取り組み】

■ふれあいサロンの推進　■ふれあい交流事業の充実　■世代間交流の充実

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民同士の交流や居場所づくり、健康づくり・介護予防等を目的とした「ふれあいサロン活動」を推進・支援しました。

【主な事業】

１）ふれあいサロン活動の推進・支援

少子高齢化や核家族化の進行による住民同士のつながりが希薄化するなか、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯等が地域で孤立しがちとなっており、各自治区単位での住民主体の通いの場である「ふれあいサロン活動」を、民生委員・児童委員等の関係者と連携して推進・支援しました。

今年度も、新型コロナウイルスの影響でサロン活動を自粛や中止と判断する自治区が多い中、ふれあいサロンを再開する自治区もあり、感染予防に努めながら自治区の支援を行いました。

また、社協だより等を活用して、コロナ禍でのふれあいサロン実施の留意点や、実施している自治区の活動等を掲載することで、取り組みを再開しようとする自治区の支援をしました。

〇ふれあいサロン活動支援自治区　14 自治区（令和３年度９自治区）

波津、内浦、手野、新松原、西山田、高尾、旭西、百合ヶ丘、戸切、戸切白谷、新海老津、野間一、東高倉、龍王団地

２）ふれあい交流事業の充実

地域ふれあい交流会「社協夏まつり」、「障がい者クリスマス交流会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

障がい者クリスマス交流会については、参加予定だった障がい者 28 人にケーキとプレゼントを配布しました。

〇在宅介護者のつどい　　東部公民館

在宅介護者の心身のリフレッシュや情報交換、ふれあい交流を図るとともに、在宅介護者の会「こもれびの会」会員の増員を目的に、在宅介護者のつどいを開催しました。

令和４年 11 月９日　参加者 16 人

〇囲碁・将棋大会　いこいの里

高齢者のふれあい交流と異世代間での交流を目的に、棋友会の協力のもと開催しました。

令和５年２月 12 日　参加者 27 人

３）おもちゃ図書館の運営

障害のある子どもや親が自由に楽しく遊ぶ場、また、同じ悩みを持つ家族が語り合える場として、おもちゃ図書館ボランティアたんぽぽの会の協力により、毎月第２土曜日・毎週木曜日（第１・３木曜日３歳までの乳幼児に一般開放）に開館しました。

開館日　55 日（うち一般開放 21 日）

利用者数

障がい者（児）：延べ 160 人・乳幼児等：延べ 101 人

家族等　　：延べ 185 人・見学等　：延べ４人

（３）地域の多様な支えあいの促進

【具体的な取り組み】

■地域コミュニティ活動の推進　　■生活支援体制の構築

■地域での健康づくり・介護予防活動の推進　　■分野を超えた連携の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民主体の助け合いや、地域と事業所の連携など、公的サービスでは困難な助け合いを推進支援しました。

■生活支援コーディネーターとして本人、地域、事業所をつなぐ役割を担いました。

■町内の社会福祉法人とのネットワークの構築に向けて取り組みました。

【主な事業】

１）生活支援体制整備事業（町受託事業）

新型コロナウイルス感染症の影響で人と人が対面する地域活動の自粛が余儀なくされる中、できるかぎり閉じこもりや孤立を防ぎ、地域のつながりを途切れさせないよう、生活支援コーディネーターとして実際に地域を回り、コロナ後を見据えた地域活動再開に必要な情報提供とその取り組みを支援しました。また、行政（地域づくり課）と共催した「校区別懇談会」や地域住民等や事業所等との「話し合いの場」を通じて、地域の課題や必要な資源の把握・整理を行いました。

〇校区別懇談会への参加

第１回校区別懇談会　海老津校区：令和４年 11 月 28 日（岡垣町役場）
山田校区　：令和４年 11 月 29 日（東部公民館）
戸切校区　：令和４年 12 月１日（東部公民館）
内浦校区　：令和４年 12 月６日（西部公民館）
吉木校区　：令和４年 12 月９日（中央公民館）

第２回校区別懇談会　海老津校区：令和５年１月 30 日（岡垣町役場）
山田校区　：令和５年１月 31 日（東部公民館）
戸切校区　：令和５年２月２日（東部公民館）
内浦校区　：令和５年２月７日（西部公民館）
吉木校区　：令和５年２月 10 日（中央公民館）

〇話し合いの場（第１層・第２層協議体）　令和５年３月 18 日

地域に顕在化する課題の把握とともに、コロナ禍においても活動している地域の取り組みを共有することを目的に、話し合いの場を開催しました。コロナ後を見据え、これからの地域活動に必要なことについての協議・課題の抽出を行いました。

内　容　班ごとに「こんな町にしたい」という理想をタイトルとして掲げ、その理想を実現するための課題（困りごと・悩みごと）を出し合い、大きく３つから５つの課題にグルーピングしました。それらの課題に対して具体的に「取り組んでみたいこと」や「やるべきこと」を出し合い、特にお勧めの取り組みを１つ抽出していただきました。最後に、今回の話しあいを通して「これから私にできること、やってみたいこと」を１グループが１つ宣言しました。

参加者　38 人（自治区長、民生委員・児童委員、事業所、住民など）

【福祉総合計画との連動】

校区別懇談会および話し合いの場は、現在、岡垣町と共に策定を進めている「岡垣町福祉総合計画」の住民ワークショップと位置づけて実施しました。ここで把握した現状や課題、その後の取り組みなどについて計画に反映させます。

〇各自治区の取り組みへの支援（各区内にある小さな居場所、集まり等も含む）

コロナ禍での情報提供および活動支援など

内浦校区／波津、内浦、手野、新松原

吉木校区／三吉、吉木、高倉、上高倉、塚原、公園通り西
海老津校区／南山田、高尾、旭中、旭東、新海老津、海老津、上畑、野間一
野間二、東高倉
山田校区／糠塚、山田峠、東山田、緑ヶ丘、旭南、高陽、百合ヶ丘、鍋田
西高陽、東高陽、南高陽、松ヶ台西
戸切校区／戸切、戸切白谷、上海老津、龍王団地

〇町との連携および情報共有

生活支援コーディネーター連絡会への出席

本事業を活用して、地域共生社会の実現や校区コミュニティのあり方を模索するため、長寿あんしん課、福祉課、地域づくり課、社協に相談支援包括化推進員を配置し、毎月定例の連絡会に出席しました。

参加状況　第１回：令和４年５月 20 日　第２回：令和４年６月 21 日
第３回：令和４年７月 26 日　第４回：令和４年８月 30 日
第５回：令和４年９月 27 日　第６回：令和４年 10 月 25 日
第７回：令和４年 11 月 29 日　第８回：令和５年１月 31 日
第９回：令和５年２月 28 日　第 10 回：令和５年３月 28 日

主な内容　コロナ禍における地域情報の共有、生活支援コーディネーター業務の進捗状況、必要な社会資源の検討、話し合いの場の開催など

研修会等への出席

町の生活支援コーディネーター（長寿あんしん課）と共に研修会等へ参加し、先進的な取り組み事例等に関する情報収集を行いました。

参加状況　福岡県生活支援コーディネーター連絡会　令和５年１月 27 日
静岡県移動サービス事例報告会（ﾘﾓｰﾄ形式）令和５年２月 15 日

２）地域ケア個別会議への出席

個別事例について、多職種による専門的かつ多様な視点で検討を行うことで、自立支援と重度化予防につなげることを目的とした地域ケア個別会議に出席しました。個別課題の検討を積み重ねることで地域の共通課題を把握するとともに、事例を担当する介護支援専門員と情報共有し、地域でその人の暮らしを支えるための具体的な取り組みへつなぎました。

〇地域ケア個別会議（ﾘﾓｰﾄ形式）

開催日　第１回：令和４年６月 23 日　第２回：令和４年 10 月 27 日
第３回：令和５年２月 21 日　第４回：令和５年３月 23 日

参加者　地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所
理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、保健福祉環境事務所
生活支援コーディネーター　等

３）地域介護予防活動支援事業（町受託事業）

地域におけるネットワークの構築、介護予防の知識や方法を地域に普及する人材育成及び介護予防に資する地域組織（ふれあいサロンや認知症カフェ等）の支援を実施しました。

地域介護予防活動支援

・ふれあいサロン活動支援　14 地区２団体 40 回　参加者延べ 681 人
（令和３年度：９地区３団体 17 回　参加者延べ 280 人）

認知症カフェ運営支援　１箇所１回　参加者延べ９人

（令和３年度：２箇所２回　参加者延べ 19 人）
出前楽らく健康教室
・講師　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会
・中央公民館：全 24 回
参加者延べ　1,256 人
東部公民館：全 48 回
参加者延べ　2,957 人
脳若トレーニング教室
・講師　ＮＰＯ介護予防で日本を元気にする会
・開催場所　いこいの里
・全 12 講座（原則：７月８日～９月 30 日毎週金曜日）
・参加者 14 人
介護予防サポーター養成講座
・講師　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会
・全 12 回（原則：令和４年９月 29 日～令和４年 12 月 22 日木曜日）
・参加者９人
・内容　講話、ストレッチ体操、筋力トレーニング、実践練習等
介護予防サポーターのつどい
・第１回　令和４年８月 30 日　中央公民館
参加者　37 人
内　容　講義「高齢者の食生活にひと工夫！～これからの栄養の話し～」
北九州スポーツクラブ連絡会　栄養管理士 甲斐亜希子 氏
運動実技　新聞棒を使った体操、歩くための筋力を鍛えましょう
北九州スポーツクラブ連絡会 佐々木芙美 氏
・第２回　令和５年２月 16 日　いこいの里
参加者　50 人
内　容　意見交換会（事例発表：海老津区、意見交換、発表）
運動実技　　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会
介護予防サポーター地区活動支援　　実施自治区 11 区 1 団体（団体：旭台４区合同）
ケア・トランポリン運動教室
・指導　ケア・トランポリン協会
デモンストレーション　令和４年５月６日　いこいの里　　参加者　21 人
ケア・トランポリン運動教室　前期の部　いこいの里　参加者　33 人
全 20 回
ケア・トランポリン運動教室　後期の部　いこいの里　参加者　29 人
全 20 回
自動血圧計・非接触型体温計貸出業務
・自動血圧計貸出 ８件（自治区、団体）
・非接触型体温計貸出 ２件

４）社会福祉法人連携協議会の運営

福祉避難所や連携協議会に関する地域貢献事業、研修会について、作業部会を開催し協議しました。

岡垣町内社会福祉法人連携協議会（R2.1 発足）
参加法人　　社会福祉協議会（会長・事務局）、日本傷痍者更生会（副会長）
　　高章会（監事）、岡垣睦福祉会、つつみ会、局会、いわき福祉会
作業部会
第１回 令和４年６月 28 日　いこいの里 14 人（内地域づくり課３人）
協議事項等：福祉避難所について、生活支援体制整備事業について、ふくおかライフレスキュー事業について、職員研修会について
第２回 令和４年 11 月 22 日　いこいの里 10 人（内県社協１人）
協議事項等：職員研修会について、ふくおかライフレスキュー事業について
職員研修会（連携協議会主催）
令和５年２月 26 日　いこいの里 25 人
テーマ「制度だけでは解決できない課題に対する解決の視点について」－これからの社会福祉法人に求められること－
講師　臨床ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ研究所（CSWRI）・Kinugasa＆Associates.
　　代表　衣笠一茂 氏

２．地域福祉を支える「ひと」づくり

地域福祉の主役は、地域の人たちです。子どもから高齢者まで、地域のすべての人たちが地域福祉の担い手としての自覚を持ち、「お互いさま」の心で支えあい、助け合う人づくりを進めました。

また、地域の身近な支援者である民生委員・児童委員の活動を支援し、ボランティアや地域の「お世話焼きさん」など地域福祉を推進する「ひと」づくりを進めました。

（１）福祉のこころを育む意識の醸成と啓発

【具体的な取り組み】
■地域と学校の連携体制の推進　■福祉教育の推進
■認知症への理解の促進　■障害のある人の差別解消の推進
【社会福祉協議会が取り組むこと】
■学校と連携し、児童を対象に福祉教育を実施しました。
【主な事業】

１）福祉体験講座（学校・地域）の実施

他人への思いやりや、やさしい心を育むことを目的に、小・中学校等と連携し、福祉教育を実施しました。

〇福祉教育導入講座（“福祉とは”）

内浦小学校	４年生（１クラス）	１日：１コマ	参加者 12 人
吉木小学校	４年生（２クラス）	１日：２コマ	参加者 47 人
海老津小学校	４年生（３クラス）	１日：３コマ	参加者 115 人
山田小学校	４年生（３クラス）	１日：３コマ	参加者 122 人
戸切小学校	４年生（１クラス）	１日：１コマ	参加者 10 人

〇車いす体験（ゲスト：田原氏※内浦小のみ）

内浦小学校	４年生（１クラス）	１日：２コマ	参加者 12 人
吉木小学校	４年生（２クラス）	１日：４コマ	参加者 47 人

海老津小学校　４年生（３クラス）　　２日：６コマ　　参加者 115 人
山田小学校　　４年生（３クラス）　　２日：６コマ　　参加者 122 人
戸切小学校　　４年生（１クラス）　　１日：２コマ　　参加者９人
岡垣中学校　　１年生（５クラス）　　３日：10 コマ　参加者 182 人

〇視覚障害（アイマスク）体験
海老津小学校　４年生（３クラス）　　２日：６コマ　　参加者 115 人
戸切小学校　　４年生（１クラス）　　１日：２コマ　　参加者９人

〇視覚障害（点字）体験
山田小学校　　４年生（３クラス）　　２日：６コマ　　参加者 122 人

〇手話体験（手話通訳者：石田氏、二宮氏、聴覚障害者：太田氏）
内浦小学校　　４年生（１クラス）　　１日：２コマ　　参加者 12 人

〇義足ユーザーとの交流（ゲスト：櫻たかこ氏）
山田小学校　　４年生（３クラス合同）１日：２コマ　　参加者 122 人
内浦小学校　　４年生（１クラス）　　１日：２コマ　　参加者 12 人

〇認知症サポーター養成講座
戸切小学校　　４年生（１クラス）　　１日：１コマ　　参加者９人

〇福祉教育読本「ともに生きる」、福祉教育教材「ともに生きる」配布
町内５年生を対象に、福祉を身近なものとしてとらえ、ともに生きる大切さを学習するための副読本として、福祉教育読本「ともに生きる」配布しました。また、福祉教育での教材として活用してもらうため、福祉教育教材「ともに生きる」を町内４年生に配布しました。（福岡県社協作成）
福祉教育読本「ともに生きる」配布数 315 冊
福祉教育教材「ともに生きる」配布数 345 冊

〇福岡県福祉教育推進員連絡会および福祉教育担当者会議への参加
連絡会や研修会等に参加することで、他市町村との情報共有を通して新たな知識や参考となるプログラムの習得に努めました。
福岡県福祉教育推進員連絡会　春日市クローバープラザ
令和４年５月 31 日、令和４年７月 22 日、令和５年２月 21 日
福岡県福祉教育担当者会議　春日市クローバープラザ
令和５年２月 21 日

２）認知症サポーター養成講座の実施

認知症を正しく理解し、地域でサポートができる人材づくりの講座を、行政と協働し小学生を対象に開催しました。

〇認知症ケア地域推進事業
認知症サポーター養成講座　戸切小学校４年生（１クラス）　参加者　９人

（２）地域活動を支える担い手の育成

【具体的な取り組み】
■民生委員・児童委員の活動への支援　　■地域福祉活動を担う人材の育成

【社会福祉協議会が取り組むこと】
■民生委員児童委員協議会の事務局として、各委員との連携を深め、その取り組みを支援しました。
■地域福祉に関する研修会や講座を開催し、人材育成に取り組みました。

【主な事業】

１）岡垣町民生委員児童委員協議会との連携強化

社協と民児協とは、地域福祉を展開していく上で協力が不可欠であり、民児協との連携を強化するため、社協が民児協の事務局を担い支援しました。

２）地域人材育成事業（町受託事業）

地域共生社会の実現に向け、すべての住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができるよう、住民に身近な圏域において、自らが地域福祉の担い手として主体的に行動する人材育成を図ることを目的に地域人材育成講座全 12 回実施しました。

日時	内容
【第１回】 ８月６日	テーマ　こどもの学校へ行きたくないにできること ～本人も、親も、ひとりじゃない～ 講　師　北九州市立大学 地域創生学群 准教授 寺田千栄子 氏 参加者　22 人
【第２回】 ９月 10 日	テーマ　かわる公共交通 講　師　岡垣町都市建設課職員 参加者　27 人
【第３回】 ９月 24 日	テーマ　子どもの笑顔を育む地域 ～身近にある児童養護施設と里親制度～ 講　師　報恩母の家 施設長 花田悦子 氏、福岡県里親支援機構リンク 参加者　30 人
【第４回】 10 月 29 日	テーマ　認知症と共に生きる ～認知症になっても在宅で長く暮らすためのヒント～ 講　師　医療法人光風会 宗像病院 高杉 正 氏 参加者　57 人
【第５回】 11 月 12 日	テーマ　人口減少時代の都市計画とまちづくり 講　師　岡垣町都市建設課職員 参加者　15 人
【第６回】 11 月 26 日	テーマ　フレイルを予防して元気に過ごそう 講　師　おんが病院訪問看護リハビリステーション 士長 林剛己 氏 参加者　25 人
【第７回】 １月 14 日	テーマ　人とペットの幸せな暮らし 講　師　宗像・遠賀保健福祉環境事務所 職員 参加者　18 人
【第８回】 １月 28 日	テーマ　ヤングケアラー 講　師　久留米大学 人文学部 社会福祉学科 教授 門田光司 氏 参加者　28 人
【第９回】 ２月４日	テーマ　夢実現～義足 de チャレンジ～ 講　師　右足大腿義足ユーザー　櫻たかこ 氏 参加者　50 人
【第 10 回】 ２月 11 日	テーマ　住まいの終活について 講　師　終活パートナー九州 代表 真武純哉 氏

	参加者　25 人
【第 11 回】 ３月４日	テーマ　ケアニン上映会 認知症の方との共生について考えよう 参加者　25 人
【第 12 回】 ３月 11 日	テーマ　いま知っておきたい在宅医療の話 講　師　おんが病院 統括副院長 末廣剛敏 氏 参加者　25 人

（３）ボランティア活動の推進

【具体的な取り組み】

■ボランティアの育成、支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ボランティアセンターに登録しているボランティア 44 団体に対して、ボランティア活動を支援しました。

１）福祉ボランティアの養成・支援

ボランティアセンターを岡垣町から受託したことに伴い、社協だよりや社協ホームページを活用してボランティアセンターの周知啓発を図りました。また、いこいの里館内に「ボランティア掲示板」を設置し、ボランティア情報を提供しました。

〇出張ボランティア相談会

令和４年 12 月２日　中央公民館　参加者 15 人

令和４年 12 月９日　中央公民館　参加者 17 人

〇ボランティアセンターだよりの発行

ボランティア活動をしている現場に出向き、奇数月に発行する「岡垣町ボランティアセンターだより」を通して、ボランティア活動の普及に努めました。

発行総部数 8,328 部（６回／奇数月：全戸配布 1,388 部）

〇中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア研修会

令和５年１月 21 日　遠賀町中央公民館　参加者７人

講演　「地域づくりについて」

講師　ＩＴ企業勤務／一般社団法人岡垣スタイル 代表 眞山 昌 氏

〇ボランティア交流会

令和５年１月 29 日　いこいの里　参加者 22 団体 36 人

内容　ボランティア団体同士が悩みや困りごとを共有し、ボランティアセンターの役割を踏まえ、これからのボランティアのあり方を考えるためのワークショップを行い、ボランティア活動の活性化につなげました。

〇ふくおか“きずな”フェスティバル

令和５年２月 19 日　春日市クローバープラザ　参加者９人

・記念講演　　元気 100 歳への挑戦～90 歳現役医師の令和養生訓～

講　　師　　社会医療法人 原土井病院 理事長 原 寛 氏

・ボランティア活動別分科会

「高齢者、子ども・子育て支援、障がい児者、男女共同参画、防災・環境」

・子育てイベント

２）ボランティア講座（町受託事業）

ボランティアの安定的、継続的な活動を支え、更なる充実を図るために、ボランティア活動のきっかけづくりや、活動に必要な知識、技術を学ぶ研修・講座を開催し、人材育成とスキルアップを行うことを目的にボランティア講座を実施しました。

・参加者　７講座　延べ 174 人

日時	内容
【第１回】 7月 16 日	講　演　いっしょにやる、ということ ～ボランティアが生み出すチカラをまちのチカラへ～ 講　師　九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授 NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー 加留部 貴行 氏
【第２回】 ※コロナ禍中止 8月 20 日	講　演　岡垣町の未来を創る ～SDG’s de 地方創生ワークショップ～ 講　師　SDG’s de 地方創生 公認ファシリテーター OKAGAKI STYLE 代表 眞山 昌 氏
【第３回】 9月 17 日	講　演　災害ボランティアセンター研修（活動編） 講　師　福岡県社会福祉協議会 地域福祉部 災害福祉支援センター 主査 藤本博昭 氏
【第４回】 10 月 22 日	講　演　岡垣町の未来を創る ～SDG’s de 地方創生ワークショップ～ 講　師　SDG’s de 地方創生 公認ファシリテーター OKAGAKI STYLE 代表 眞山 昌 氏
【第５回】 11 月 19 日	講　演　ふれあいサロンに新しい軽スポーツを ～ニュースポーツ講座＆体験会～ 講　師　北九州市レクリエーション協会 田上真彦 氏
【第６回】 12 月 16 日	講　演　地域における子どもの居場所づくり 講　師　ＮＰＯ法人子どもＮＰＯセンター福岡 事務局長 牛島恭子 氏
【第７回】 1月 16 日	講　演　「災害ボランティアセンター研修（ニーズ調査編）」 講　師　福岡県社会福祉協議会 地域福祉部 災害福祉支援センター 主査 藤本博昭 氏
【第８回】 2月 16 日	講　演　三里松原を未来につなぐ 講　師　岡垣町ボランティアセンター登録団体 三里松原を愛し守る会 会長 平井政秀 氏

３）岡垣町ボランティアクラブ

〇ボランティアクラブ説明会

令和４年５月７日　いこいの里　参加者９人
内容　岡垣町ボランティアクラブの概要について
今年度の予定について
ボランティア活動保険について
〇ボランティアクラブの活動状況
・千羽鶴作成
期間　令和４年８月２日～８月 31 日　いこいの里
参加者 12 人（ボランティアクラブ３人）
・平和の木の作成
令和４年８月６日　いこいの里　参加者４人（ボランティアクラブ３人）
内容　各小学校で、木の葉型のメッセージカードに記入していただいた平和に関するメッセージを､｢クスノキ｣を模した台紙に張り付けて平和の木を作成しました。
・へいわのかたりの会
令和４年８月７日　岡垣サンリーアイ　参加者 15 人（ボランティアクラブ４人）
内容　開場時でのパンフレット配布、検温及び事業修了後のアンケート回収など
・まつり岡垣
令和４年 10 月 16 日　岡垣サンリーアイ　参加者７人
内容　赤い羽根共同募金運動の支援（ポップコーン・風船配り）
・令和５年岡垣町二十歳式
令和５年１月９日　岡垣サンリーアイ　参加者 15 人
内容　配布物の袋詰め作業、二十歳式及び来場者の受付

３．地域でともに生きる「環境」づくり

全ての人が年齢や状況を問わず､その人のニーズに合った支援が受けられるよう全世代･全対象型の地域包括支援体制づくりが求められています。支援を必要とする人が、必要とするときに、適切なサービスを利用できるように、きめ細かな情報提供や相談支援体制の充実を図るとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる環境の整備に努めました。

また、地域福祉を推進するため、地域の人たちが地域の色々な場所で、様々な関りを持ち交流できるよう地域福祉の拠点づくりを継続支援します。

（１）きめ細かな情報提供と相談支援体制の充実

【具体的な取り組み】
■相談支援体制の充実　　■広報広聴機能の強化
【社会福祉協議会が取り組むこと】
■相談については、他職種・他機関と連携し困りごとの解決を図りました。
■全国の先進事例や町内での優れた取り組みを把握し､社協だよりやホームページを活用し情報発信に努めました。

【主な事業】

１）相談支援体制の充実

〇重層的支援体制整備事業
児童や高齢者、障害者、生活困窮など、個人や世帯が複数の課題を抱える場合や、制度

の狭間にある課題を抱える場合、支援する側が自分の分野を超えて受け止めることで、専門職や地域が連携して継続的に関わっていく必要があります。重層的支援体制整備事業の実施にあたり、複合的な課題を抱える個別課題への適切な対応と充実した包括的な相談支援体制づくりを推進するため、関係機関等との横断的な支援ネットワークづくりに取り組みました。

〇コアメンバー会議（定例毎月１回）　　町役場

出席者：長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、福祉課・社協（事務局）

内　容：各課や社協に相談のあったケースの中で、多問題や複雑化している世帯の情報を共有しました。共有した世帯の状況によって、早期に支援が開始になりそうな場合はモデルケースとし、それ以外は経過を観ていくケースに分けました。支援の方向性の確認や支援機関の役割分担が必要と判断した場合は、支援会議や重層的支援会議の開催を検討しました。

〇重層的支援会議

令和５年３月 14 日　いこいの里

内　容：地域で迷惑行為を繰り返す精神疾患の方の支援をどのように行うか検討しました。

- 出席者から支援状況など確認して、本人の生活状況など現状の共有を行いました。
- 現状から支援機関の見立て出しや意見を出し合い、支援の方向性について目線合わせを行いました。
- 本人の課題について参加者で確認し、課題に対して関係機関がどのようにアプローチするか役割を分担しました。
- 今後の支援等について、情報共有を行いました。

出席者：福祉課、長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、社協（事務局）福津訪問クリニック、福津訪問看護、保健師（宗像・遠賀保健福祉環境事務所）、ケースワーカー（宗像・遠賀保健福祉環境事務所水巻分庁舎）、社会福祉士（町地域包括支援センター）、相談員（福岡県自立支援相談支援事務所）

〇各種研修会出席

令和４年９月 12 日　重層的支援体制整備構築推進人材養成研修
参加者：社協２人

令和４年 11 月 14 日　ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議
参加者：福祉課２人・社協２人

令和４年 11 月 15 日　重層的支援体制整備構築推進人材養成研修
参加者：福祉課１人・社協２人

令和５年１月 27 日　重層的支援体制整備構築推進人材養成研修(多機関協働事業者向け)
参加者：社協２人

令和５年２月２日　重層的支援体制整備構築推進人材養成研修(ｱｳﾄﾘｰﾁ支援事業者向け)
参加者：社協２人

令和５年２月 13 日　重層的支援体制整備構築推進人材養成研修(参加支援事業者向け)
参加者：社協２人

〇総合福祉相談窓口、法律相談

社協は、現在の法律や制度で定められた福祉サービスに対する福祉課題や、高齢者の買

い物など日常生活上起こり得る生活課題について、地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制の構築に取り組みました。

総合福祉相談窓口

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、国や県、町の動向を把握し、法令や制度を網羅した手引きを活用し、すべての職員が対応できるように、職員間の情報共有に努めました。

総合福祉相談窓口（毎月２回・いこいの里）、電話受付等

総合福祉相談 746 件（令和３年度：618 件）、その他相談 2,825 件

〇法律相談

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、職員の資質向上や分かりやすい情報提供に努め、法律相談を開催しました。

法律相談（弁護士 12 回：いこいの里）

69 件（令和３年度：70 件）

２）広報広聴機能（社協だより・ホームページ）の強化

〇社協だよりの充実

社協の広報紙社協だよりを町内全戸に配布し、社協の事業や地域の福祉活動等の記事を掲載し、事業の普及・啓発に努めました。

発行総部数 84,000 部（６回／奇数月：全戸配布 14,000 部）

〇広報広聴委員会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、広報広聴委員会を中止しました。

〇社会福祉協議会ホームページ

社会福祉協議会の活動内容やいこいの里入浴施設のＰＲ等、掲載内容の充実を図るとともに常に新しい情報を公開するように努めました。

（２）福祉サービスの充実と基盤の整備

【具体的な取り組み】

■いこいの里の運営　　■地域福祉を支える財源等の確保

■各種福祉関連計画に掲げたサービスの提供

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■共同募金運動を推進し、地域福祉のために積極的に活用しました。

■従来の分野では対応できない地域の問題や、制度の狭間にある複雑な課題に対し、地域での生活支援体制を行政と協議しました。

【主な事業】

１）いこいの里の運営（指定管理期間：令和３年度～令和７年度）

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、入浴施設内のソーシャルディスタンスや黙浴等により、利用の制限をしましたが、適正な管理運営により、昨年度より利用者が約１万２千人増員しました。

≪いこいの里施設利用状況≫

区 分 ＼ 年 度	令和４年度	令和３年度
施設利用者（利用率）	95,362 人（56.6%）	72,581 人（57.0%）
ふれあい館利用者 （浴室施設利用者は除く）	22,427 人	16,166 人

浴室施設利用者	38,842 人	26,463 人

利用率：使用日/開館日

２）共同募金運動の推進

共同募金会岡垣町支会と連携・協力し、共同募金運動を推進しました。新型コロナウイルスの影響はありましたが、今年度の目標額を達成しました。

募金実績　共同募金　5,302,688 円（令和３年度 5,295,320 円）
　　歳末募金　　488,559 円（令和３年度 488,000 円）

３）介護保険等サービスの質の向上

①居宅介護等事業

介護保険制度において、要介護等と認定された高齢者や障害者総合支援法における障害支援区分の判定を受けた利用者に対して、質の高いサービスの提供を行うため、職員を対象とした研修会の開催や資格取得のための勉強会などを積極的に行いました。

訪問介護事業では、身体介護を必要とする利用者が増えたことで、増収となりました。

居宅介護支援事業は、ケアマネジャーが３人から２人になり、利用者が減ったため減収となりました。

収入　居宅介護支援事業　　11,855,880 円（令和３年度：14,162,573 円）
　　訪問介護等事業　　54,611,947 円（令和３年度：44,997,687 円）

≪介護保険事業利用状況≫

区分＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R3
訪問介護事業	74	74	70	67	71	65	60	61	63	66	71	68	810	657
介護予防・日常生活支援総合事業	64	61	63	62	61	60	59	59	59	60	60	57	725	839
居宅介護支援事業	74	76	75	76	79	75	72	69	68	67	65	61	857	853
介護予防支援事業	33	29	31	31	31	32	31	29	25	21	21	20	334	320
延利用者数	245	240	239	236	242	232	222	218	215	214	217	206	2,726	2,669

②障がい者の自立に関する取り組み

居宅介護・重度訪問介護事業では、障害のある人等がその有する能力に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように訪問介護員（ホームヘルパー）が入浴、排せつ、食事の介護、その他の生活全般にわたる援助を行いました。同行援護事業では、常にサービスを提供できる体制を整えています。

≪障害者総合支援法に基づく居宅介護等事業利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R3
居宅介護等事業	16	14	14	13	13	13	14	13	12	12	12	12	158	172
地域生活支援事業	2	2	3	3	1	2	2	2	3	3	3	5	31	23
同行援護事業	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	5	9

③短期訪問介護事業

介護保険制度で自立と認定された人や介護保険制度外での支援が必要な人等へ訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）を実施しました。

≪短期訪問介護事業≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R3
短期訪問介護事業	22	19	21	26	18	18	13	17	16	17	17	15	219	257

4）在宅福祉サービスの充実

・送迎サービス事業　・入浴サービス事業　・福祉機器貸与事業
・福祉車両貸与事業　・コミュニティ車両貸与事業
・配食サービス事業（町受託事業）　・手話通訳者派遣事業（町受託事業）

〇送迎サービス事業

低所得で車いすや常時つえが必要な高齢者や障がい者の福祉向上及び社会参加の促進・支援として、送迎ボランティアの協力のもと送迎サービス事業を実施しました。

送迎サービス事業に必要な知識を習得することにより、送迎サービス事業で活動するボランティアが安全・安心して活動できることを支援するために研修会を開催しました。

令和４年６月25日　いこいの里
参加者　送迎ボランティアの会19人
内容　「交通安全講習」「車いす体験」「福祉車両の操作について」

≪送迎サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R3
送迎回数	19	23	22	25	18	22	19	16	21	17	20	22	244	259
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動人員（延）	48	49	54	51	39	47	45	36	47	45	40	51	552	608

〇入浴サービス事業

利用者なし。

〇福祉機器貸与事業

福祉機器を貸与することで、在宅の高齢者や障害のある人等に日常生活の利便性の向上が図れるように支援しました。

≪福祉機器貸与延台数≫ 延 104台

車いす	68台	ベッド	４台	歩行器（車）	６台
ポータブルトイレ	９台	シャワー椅子	６台	介助バー	４台
入浴用踏み台	３台	シャワーキャリー	２台	オーバーテーブル	２台

〇福祉車両貸与事業

高齢や障害等のため車いすを使用しなければ外出ができない人等の福祉の増進を図るため、社協所有の福祉車両（車いす対応）の貸与事業を実施しました。

９回 （令和３年度：27回）

〇コミュニティ車両貸与事業

ボランティア活動や地域コミュニティ活動を支援するため、軽トラックの貸与事業を実施しました。

３地区・２団体：９回（令和３年度：２地区・３団体：16回）

〇配食サービス事業（町受託事業）

調理・配食ボランティアやシルバー人材センター等への業務委託により、週５回（火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日）の 256 日配食サービス事業を実施しました。

配食サービス事業で活動するボランティアが安全・安心して活動できることを支援するために交通安全講習を開催しました。

令和４年６月 25 日　いこいの里

参加者　やまびこの会 13 人

≪配食サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R3
配食日数	22	21	22	22	21	22	21	22	20	20	20	23	256	255
配 食 数	2,329	2,389	2,606	2,474	2,304	2,240	2,171	2,214	1,939	1,864	1,841	2,022	26,393	25,663
平均配食数	106	114	118	112	110	102	103	101	97	93	92	88	103	101

〇手話通訳者派遣事業（町受託事業）

聴覚障がい者、音声・言語障がい者の日常生活や社会生活におけるコミュニケーションを支援するために、手話通訳者を派遣しました。

≪コミュニケーション支援状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R3
利用者数	6	10	5	10	16	10	7	14	3	5	10	4	100	98
派遣者数	6	8	5	10	16	10	7	14	3	5	10	4	98	96

（３）人にやさしい生活環境づくり

【具体的な取り組み】

■地域福祉の活動拠点づくり　　■移動手段の確保

■ユニバーサルデザインの推進と啓発

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■地域での有償サービスや、地域と事業所の連携による新たな移動支援サービスの取り組みを行政と協議しました。

【主な事業】

1）移動支援サービスの検討・支援

本年度から送迎サービス事業を総合事業（介護保険制度）の受託事業として、実施しました。

４．誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

災害は、ある日突然に起こるもので、日常の備えが欠かせません。特に災害発生時は、地域のチカラ（互助）が重要です。そこで、災害時や緊急時に適切に対応できるよう、支援が必要な人の把握や地域での見守り体制を強化しました。

また、関係機関と連携し、生活に困窮した人や制度の対象とならない制度の狭間にある人への支援や、虐待防止に関する施策の推進や成年後見制度の普及に努め、権利擁護を必要とする人に適切な支援を行いました。

（１）災害時・緊急時の助け合いのしくみづくり

【具体的な取り組み】

■避難行動要支援者支援体制の確立　　■自主防災組織の育成

■災害ボランティアセンターの設置　　■福祉避難所の整備

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■福祉的な配慮が必要な場合は福祉避難所を設置し、適切に運営しました。

【主な事業】

１）災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施

災害ボランティアセンターの設置については、町と協定を締結しています。また、災害ボランティアセンターの運営研修に役職員が参加しました。

〇中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会役職員研修会

令和５年２月18日　遠賀町中央公民館

役員・評議員 16 人・職員 ５人

講演　「災害ボランティアセンターについて」

講師　福岡県社会福祉協議会災害福祉支援センター 職員 藤本博昭 氏

講演　「九州北部豪雨における災害ボランティアセンターの運営について」

講師　朝倉市社会福祉協議会 福祉課長 居川 茂 氏

福岡県総合防災訓練が中間市で開催されるため、災害ボランティアセンター運営訓練に参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となり運営訓練が実施できませんでした。

２）災害時の広域的な連携体制の強化

災害時において、効率的・効果的に災害ボランティア活動などの被災者支援活動を行えるように、広域的な災害支援協定を締結し、連携しています。

３）福祉避難所の設置・運営

福祉避難所については、いこいの里が災害ボランティアセンターの拠点となるため、行政と福祉避難所の運営について協議しました。

令和４年６月 28 日　　いこいの里

（２）自立を支えるための支援

【具体的な取り組み】

■生活に困窮した人の自立支援　　■更生保護活動の支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ふくおかライフレスキュー事業に参加し、生活困窮者の自立を支援するネットワークづくりに取り組みました。

■福岡県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業を通じ、生活困窮者の社会的、経済的自立を支援できるよう努めました。

【主な事業】

１）ふくおかライフレスキュー事業（実施主体　福岡県社協）

ふくおかライフレスキュー事業は、高齢者の介護・障害児者への支援・児童の養育等、さまざまな専門性を備え長年に渡り地域で福祉を支えてきた社会福祉法人が、地域の課題に向き合い、訪問・相談を通じて、困りごとが解決できるよう支援を行う社会貢献の取り組みです。岡垣町からは３法人５事業所が参加し、地域の困りごと解決に取り組みました。令和４年度においては、生活福祉資金や生活保護など、他制度で対応したため、ライフレスキューの援助に発展する相談はありませんでした。

参加法人　社会福祉協議会、日本傷痍者更生会（恵の家、希望舎、報恩母の家）
　　岡垣睦福祉会

実績　ふくおかライフレスキュー事業　　０件（令和３年度：０件）
〇ライフレスキュー勉強会
　令和４年８月23日　いこいの里
　内　容：ライフレスキュー事業及び生活福祉資金貸付制度について
　出席者：７人（日本傷夷者更生会、社協）
〇ライフレスキュー勉強会
　令和４年11月25日　いこいの里
　内　容：ライフレスキュー事業実施地区の現状説明と課題の共有
　参加者：８人（県社協、日本傷夷者更生会、社協）
〇ライフレスキュー勉強会
　令和５年３月22日　いこいの里
　内　容：ライフレスキュー連絡会立ち上げに向けた検討
　参加者：６人（日本傷夷者更生会、社協）

２）生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

　景気低迷や新型コロナウイルス感染症が原因による離職や母子世帯等で生活に困窮している方等の相談を行い、貸付要件に該当している場合は、生活福祉資金の貸付により、自立更生の支援をしました。
　相談件数：36件（令和３年度：27件）
　貸付件数：12件（令和３年度：10件）
　◎緊急小口資金：３件　280,000円
　　内訳（生保支給までのつなぎ：３件）
　◎教育支援資金：　６件　5,161,000円
　　内訳（教育支援費：６件、就学支度費：６件）
　◎福　祉　資　金：　３件　261,000円
　　内訳（生活保護受給者生活必需品：３件）

〇生活福祉資金（緊急小口資金、総合支援資金）特例貸付事業（県社協受託事業）

　新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業等により、一時的又は継続的に収入が減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における総合支援資金（生活支援）及び福祉資金（緊急小口資金）について特例措置が設けられ、資金貸付の相談窓口として、令和２年３月23日から令和４年９月30日まで対応しました。
※総合延長貸し付けは令和３年６月末、総合再貸付は令和３年 11 月末で申請期間を終了しました。
　相談件数　74件（令和３年度：527件）
　　（内訳）
　　緊急小口資金　44件（令和３年度：208件）
　　総合支援資金　30件（令和３年度：141件）
　貸付件数　39件：142,000,000円（令和３年度296件：124,600,000円）
　　（内訳）
　　緊急小口資金　20件：4,000,000円（令和３年度　100件：19,700,000円）
　　総合支援資金　19件：10,200,000円（令和３年度　100件：53,550,000円）
　特例貸付　総相談件数　1,389件（令和２年３月21日～令和４年９月30日）
　　（内訳）

緊急小口資金　　673 件
総合支援資金　　402 件
総合支援資金延長貸付　　156 件
総合支援資金再貸付　　158 件

特例貸付　総貸付件数　760 件：293,020,000 円
（令和２年３月 21 日～令和４年９月 30 日）

（内訳）
緊急小口資金　　328 件：62,720,000 円
総合支援資金　　275 件：147,400,000 円
総合支援資金延長貸付　　75 件：39,150,000 円
総合支援資金再貸付　　82 件：43,750,000 円

（３）権利擁護を必要とする人への支援

【具体的な取り組み】
■成年後見制度の普及と利用促進　■金銭管理に不安を抱える人への支援
■死後事務の支援　■虐待や DV 被害の防止対策

【社会福祉協議会が取り組むこと】
■法人後見事業の取り組みについての検討を行いました。
■福岡県社会福祉協議会が行う日常生活自立支援事業を通して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを行いました。
■ずっと安心プラン事業（葬儀納骨残存家財処分などの死後事務委任）の充実に努めました。

【主な事業】

１）法人後見事業

身寄りのない高齢者等の権利擁護のため、日常生活自立支援事業の契約者に対し、引き続き成年後見人等になることで安心と信頼に基づく支援が継続して実施できるよう、法人後見事業実施に向けた成年後見運営委員会の設置および関係課・関係機関との情報交換等を行いました。

〇成年後見運営員会
第１回成年後見運営委員会　令和４年８月２日　いこいの里
主な内容　委嘱書交付、権利擁護支援状況報告など
第２回成年後見運営委員会　令和５年３月 10 日　いこいの里
主な内容　権利擁護支援状況報告、緊急事務管理事業の検討など

〇権利擁護支援研修会
成年後見制度利用促進研修会　令和４年 12 月９日　町役場
法人後見受任社協等連絡会（リモート研修）　令和４年 12 月 21 日

２）日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

認知症、知的障害、精神障害の方を対象に、本人の自立に向けて福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行いました。また、今後も認知症高齢者等対象者の増加が見込まれるため、関係機関等との情報共有を含め本制度の周知啓発を行いました。

日常生活自立支援事業契約者 18 人、支援件数延べ 301 件
（令和３年度：契約者 23 人、支援件数延べ 324 件）

３）ずっと安心プラン事業

高齢者や障害のある人などが安心して生活できるよう、社協が事前に預託金を預かり、葬儀・家財処分などのサービスや定期的な見守りサービス・入退院等の支援を行うずっと安心プラン事業を実施しました。また、終活に関する専門相談窓口設置や町の空き家対策と連動した終活セミナーの開催など、事業ＰＲに取り組みました。

〇契約者４人、終活相談延べ 63 件（令和３年度：契約者４人、相談延べ 56 件）

〇出前講座「終活のすすめ」

令和４年 12 月１日　海老津公民館　旭中区区民　45 人

〇終活セミナー（全３講座）　いこいの里

講　師　　終活パートナー九州　真武 純哉 氏

第１回　令和５年２月 11 日　いこいの里　参加者 23 人

講　演　「空き家にしないために・・・住まいの終活」

説　明　都市建設課「みんなで考えよう　空き家問題」

第２回　令和５年２月 15 日　いこいの里　参加者 24 人

講　演　「こんなにある！相続の手続き」

第３回　令和５年２月 22 日　いこいの里　参加者 24 人

講　演　「他人事じゃない！地域で考える終活」

４．法人としての取り組み

【具体的な取り組み】

■行政、関係機関・団体との連携強化

■役員体制および事務局体制の強化

〇社会福祉協議会役員体制の強化

研修会等へ役職員が参加しました。

〇令和４年福岡県社会福祉大会

令和４年 10 月 26 日　春日市クローバープラザ

役員　６人

記念講演　「コロナ禍でみえてきた地域福祉のあり方について～ウィズコロナ・ポストコロナ時代に向けて」

講師　日本福祉大学 教授 小松理佐子 氏

〇中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会役職員研修会

令和５年２月 18 日　遠賀町中央公民館

役員・評議員　16 人・職員　５人

講演　「災害ボランティアセンターについて」

講師　福岡県社会福祉協議会災害福祉支援センター 職員 藤本博昭 氏

講演　「九州北部豪雨における災害ボランティアセンターの運営について」

講師　朝倉市社会福祉協議会 福祉課長 居川 茂 氏

〇社会福祉協議会事務局体制の強化

職員の資質の向上や業務量に応じた適切な職員の配置など、より一層の事務局体制の強化を図るとともに、多様な福祉ニーズに対応できるように、職員の自主的な勉強会や情報交換会を開催しました。

社協の事業展開を迅速かつ効率的に行うため、毎月定例会議を開催しました。

〇制服・体操服リユース事業

不要になった「中学校の制服」や「小・中学校の体操服」を集め、必要な児童・生徒への橋渡しをすることで、子どもたちの物を大切にする心を育むとともに、子育て世帯の経済的負担軽減を図りました。

寄附実績　33 件

譲り受けた実績　15 件

〇その他の事業

社協会長表彰

社会福祉の増進に努め、その功績が顕著な人に対し、表彰状及び感謝状を贈呈しました。

令和４年８月 27 日　いこいの里

被表彰者　15 人・１団体

社会福祉事業特別功労者３人

民生委員・児童委員特別功労者３人

社会福祉事業協力者８人・１団体

特別表彰（寄附）１人

助成事業

児童養護施設や要援護児童等に対し、助成金を交付しました。

≪活動助成金交付内容≫

・児童養護施設報恩母の家（交流会等）

・自転車通学生ヘルメット購入費補助

岡垣中学校 56 人、岡垣東中学校 51 人

・修学旅行費補助（要保護･準要保護等の児童･生徒を対象）

岡垣中学校 19 人、岡垣東中学校 13 人

吉木小学校５人、海老津小学校 11 人

山田小学校 11 人、戸切小学校３人

・特別支援学級運営費補助

岡垣中学校 14 人、岡垣東中学校 11 人

内浦小学校２人、吉木小学校８人、海老津小学校 20 人、山田小学校 16 人、

・通級指導学級運営補助

岡垣中学校６人、海老津小学校 15 人、山田小学校 12 人

歳末たすけあい事業

在宅で生活している重度の障がい者（児）や施設入所者に、歳末見舞金を配布しました。また、ひとり暮らし高齢者等へ年賀状を送る事業を実施する自治区（要申請）を対象に、年賀はがきを配布しました。

在宅の重度障がい児・者（歳末見舞金）	46 人
障害者支援施設「希望舎」入所者（歳末見舞金）	45 人
障害者支援施設「こすもす園」入所者（歳末見舞金）	49 人
共同生活援助施設「あゆみヶ丘」入所者（歳末見舞金）	31 人
児童養護施設「報恩母の家」入所者（歳末見舞金）	60 人
年賀はがきの配布（27 自治区）	1,157 枚

新型コロナウイルス感染症関係事業

・新型コロナウイルス感染症に係る自宅療養者等生活支援事業（町受託事業）

令和４年度：支援対象者　1,833 人（517 世帯・食料品 1,646 セット・日用品 233 セット）※R4.8 から日用品支給廃止

令和３年度：支援対象者　546 人（132 世帯・食料品 480 セット・日用品 132 セット）

・ワクチン接種会場送迎事業（町受託事業）

送迎回数　10 回（令和３年度：21 回）

福祉総合計画・地域福祉活動計画策定（策定期間：令和４・５年度）

令和４年度から岡垣町福祉総合計画と社協地域福祉活動計画を岡垣町との協働により、一体的に策定しています。

〇各会議開催状況

理事会・評議員会開催状況

＜理事会＞

第１回	４月７日	議案第１号	理事選任候補者の推薦について
		議案第２号	第１回評議員会の開催について
第２回	４月 19 日	議案第３号	常務理事の選任について
第３回	６月１日	議案第４号	評議員選任候補者の推薦について
		議案第５号	第１回評議員選任・解任委員会委員の開催について
		議案第６号	令和４年度社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会会長表彰及び感謝の対象者の決定について
		議案第７号	令和３年度事業報告について
		議案第８号	令和３年度収入支出決算
		議案第９号	第２回評議員会（定時評議員会）の開催について
第４回	９月 20 日	議案第 10 号	表彰規程の一部を改正する規程
		議案第 11 号	令和４年補正予算（第１号）について
		議案第 12 号	第３回評議員会の開催について
第５回	１月 25 日	議案第 13 号	育児・介護休業等に関する規程の制定について
		議案第 14 号	定款施行細則の一部を改正する細則
		議案第 15 号	就業規則の一部を改正する規則
		議案第 16 号	職員給料規程の一部を改正する規程
		議案第 17 号	令和４年度補正予算（第２号）
		議案第 18 号	第４回評議員会の開催について
第６回	３月 17 日	議案第 19 号	評議員選任候補者の推薦について
		議案第 20 号	第２回評議員選任・解任委員会の開催について
		議案第 21 号	岡垣ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ休憩施設事業管理運営規程を廃止する規程
		議案第 22 号	岡垣ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ休憩施設運営委員会規程を廃止する規程
		議案第 23 号	定款の一部を改正する定款
		議案第 24 号	定款施行細則の一部を改正する細則
		議案第 25 号	事務局規程の一部を改正する規程
		議案第 26 号	非常勤役職員等報酬及び費用弁償規程の一部を改正する規程
		議案第 27 号	経理規程の一部を改正する規程
		議案第 28 号	非常勤ﾍﾙﾊﾟｰの雇用等に関する就業規則の一部を改正する規則

		議案第29号	令和４年度補正予算（第３号）
		議案第30号	令和５年度事業計画について
		議案第31号	令和５年度予算
		議案第32号	第５回評議員会の開催について

＜評議員会＞

第１回	４月19日	議案第１号	理事の選任について
第２回	６月23日	議案第２号	令和３年度事業報告について
		議案第３号	令和３年度収入支出決算
第３回	9月29日	議案第４号	令和４年度補正予算（第１号）
第４回	2月７日	議案第５号	令和４年度補正予算（第２号）
第５回	３月28日	議案第６号	定款の一部を改正する定款
		議案第７号	非常勤役職員等報酬及び費用弁償規程の一部を改正する規程
		議案第８号	令和４年度補正予算（第３号）
		議案第９号	令和５年度事業計画について
		議案第10号	令和５年度予算